

日本生物工学会の和文誌編集委員会は、Fuji Sankei Business i.の企画特集に編集協力をし、第3水曜日に記事を掲載しております。2017年5月17日付で、第38回「微生物による土壤汚染浄化」が掲載されました。

⇒過去に掲載された記事一覧はこちら

企画特集

### 微生物による土壤汚染浄化

昨今急激な産業革命は地球環境をきつぱけに、土壤汚染への懸念が高まっている。有機化学物質をばらばらに分解して、自然の状態に戻すには、微生物分解に必要な条件の検討が欠かせない。欠けた条件を人為的に整えてやることで、土壌微生物による有機化学物質の分解を促進して土壌汚染浄化を行うことをバイオレメディエーションという。土壌微生物の大半は好気性菌で、好気性菌は酸素を必要とする。好気性菌は、好気性条件下で最もよく育つ。好気性菌は、好気性条件下で最もよく育つ。好気性菌は、好気性条件下で最もよく育つ。

微生物による汚染物質の分類

土壌微生物の大半は好気性菌で、好気性菌は酸素を必要とする。好気性菌は、好気性条件下で最もよく育つ。好気性菌は、好気性条件下で最もよく育つ。好気性菌は、好気性条件下で最もよく育つ。

また、DNA配列をマーカーとして特定の微生物の数を測定することにより、微生物分解の進行具合を微生物の増殖から推測できる。菌叢の組成、分解速度の違いが原因となることがある。特定の微生物を増殖させ、微生物分解を促進させることも可能となった。

よくわかるバイオ 38

バイオレメディエーションは、汚染土壌の自然浄化に代表される従来の浄化工法と比較して、汚染エネルギーが少なく、安価で環境負荷の小さい工法として普及してきた。

(エコーバイオ・ホールディングス(株) 岡村 寛)  
協力：日本生物工学会

次回は6月20日に掲載

Fuji Sankei Business i. 2017年5月17日掲載